

AEON

木を植えています
私たちはイオンです

メッセージBOOK

2010

2010年2月期 中間報告書
(2009年2月21日～2009年8月20日)

株主のみなさまへ



ひと、
まちも、
きらきら。

よさこい祭り
(イオンモール高知)

AEON
MALL

証券コード：8905

「お客さま視点」を徹底し、魅力的なSCづくりに向けて着実な成長を実現してまいります。

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年来の経済低迷は、小売業界にも大きな影響を及ぼしています。業種・業態を超えた競争が一段と激化し、企業や商業施設間の優勝劣敗がより鮮明となっています。このような中、当社は利益の確保に確実に取り組み、増収増益(前年同期比)を果たすことができました。計画通りに4月に2SCの新規開店および既存3SCのリニューアルオープンを実施し、全社一丸となってゴールデンウィーク商戦に取り組みました。また、より効率

新中期3ヵ年経営計画をスタート

当社を取り巻く事業環境は、建築資材の高騰、経済不況、テナントの出店抑制傾向など激変しています。このため、2008年4月に発表した中期経営計画を見直し、2009年度から2011年度(2012年2月期)までを実施期間とする中期3ヵ年経営計画(以下、当経営計画)を新たに策定いたしました。

当経営計画では、①新規9SCの開店、②既存SCの収益向上、③活性化ビジネス、④中国事業を重点施策として取り組んでまいります。新規SCの開店については、国内7SCおよび海外2SCへと物件を厳選するとともに既存18SCの増床・リニューアルの実施によって、既存SCの収益を高めてまい

的な経営活動を進めるため組織体制の再編や、取締役数の削減とともに役員報酬の減額を含めるなど、コストの削減にも全力を傾注いたしました。一方、新規事業への投資を実施し、確実な成長への取り組みを進めました。

以上の結果、営業収益684億2千万円(前年同期比10.2%増)、営業利益167億82百万円(同2.3%増)、経常利益163億57百万円(同2.9%増)、純利益93億5千万円(同0.6%増)となりました。当上期の1株当たり純利益も51.62円(前年同期51.32円)となりました。

ります。当上期には、4月に「mozo wondercity(モゾ ワンダーシティ)」(愛知県名古屋市)と「イオンモール広島祇園」(広島県広島市)を開店しました。特に「mozo wondercity」は、当社の全SC中、年商でトップクラスとなる勢いです。既存SCについては、上期に3SCのリニューアルを実施し、下期にも3SCのリニューアルを進めています。

当社の全SCでは、年間で約4億人、1SCでも約1,000万人を超えるお客さまをお迎えしています。新たな企業とのタイアップにより、商品やサービスのPR、拡販の場としてSCを活用いただくなど、さらなる収益の向上に向け取り組みを進めています。

新事業への積極的な取り組み

当経営計画では、PM(プロパティ・マネジメント)事業を行う活性化ビジネスの強化も進めています。当上期7月には、東日本旅客鉄道(株)と共同でJR常磐線土浦駅ビルを全面リニューアルし、当社が運営にあたっています。

また、継続的な成長にはグローバルな展開が重要と考え、2008年11月には、中国・北京でSCをグランドオープンして海外進出を果たすとともに、中国の華北・山東省エリアで今後5年以内に5～7SCの大型SC開設を目指しています。さらに、2009年からは成長の著しいベトナムでSC事業

通期の見通しと配当政策

わが国の経済は、依然として厳しい状況が続いていますが、基本理念「お客さま第一」から決してぶれることなく、経営理念に掲げる「輝きのあるまちづくり」を目指して、常に当社のSCが地域のお客さまから高い支持をいただけるよう、各SCの魅力をより高めるために経営資源を投入してまいります。今後、当経営計画を確実に遂行し、期初に発表した通期での営業収益1,430億円(前期比9.3%増)、経常利益375億円(同1.3%増)の達成を目指します。配当については、配当方針である年間15%の



展開の可能性を探るためフィージビリティ・スタディー(事業の実現可能性調査)を開始しました。

配当性向に沿って中間配当金10円とさせていただいたほか、年間の1株当たり配当金は、期末配当金10円と合わせ20円を予定しています。さらに、年度末時点における株主の皆さまには株主優待をお届けしています。

株主の皆さまには、今後ともご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

2009年10月

新たに生まれ変わる都市型 マルチコンプレックスショッピングセンター

2009年4月21日
グランドオープン
mozo wondercity
(モゾ ワンダーシティ)
愛知県名古屋市



敷地面積：約107,000㎡
総賃貸面積：約85,000㎡
駐車台数：5,000台
専門店：約230店
従業員数：約3,500名
商圏人口：約130万人、約55万世帯



詳しいご案内はホームページをご覧ください。
<http://www.mozo-wondercity.com/>

「mozo wondercity」として新スタート

2007年にスクラップアンドビルドを目的として閉店した「イオンモール名古屋ワンダーシティ」(1994年開店)を、三菱商事(株)と共同で開発し、新たに「mozo wondercity(モゾ ワンダーシティ)」としてグランドオープンしました。

店名のmozo(もぞ)は、何かが動き始めるときの音で、当SCに有機的な生命体としての存在感を持たせ、人を惹きつけ、繰り返し訪れていただきたいの思いを込めて名付けました。また、新しいシ

ンボルマークに「苗木」のモチーフを採用し、人と地域と環境との自然なつながりにも配慮し「安心で快適な、生活と調和したSC」を目指しています。

充実したラインアップと利便性の高いアクセス

当SCは、名古屋市北部のベッドタウンに位置しています。名鉄犬山線および地下鉄舞鶴線「上小田井駅」から徒歩5分の距離にあり、国道と県道にも接する、交通アクセスに恵まれた立地です。

名古屋初出店となる62の専門店を含め、旧店の

約3倍となる230もの専門店が出店。名古屋最大級の充実したラインアップを揃えた当SCは、便利な生活を提供するベーシックなニーズとともに、快適な生活を提案する「上質」「こだわり」のワンランクアップしたニーズをお客さまに提供してまいります。

CSRへの積極的な取り組み

当社は「人と環境に配慮したSC」づくりに取り組んでいます。建物の素材、トイレ・休憩所、サイ

ン・案内板などの色や寸法など、お客さまがご利用しやすい施設を実現しました。また、建物外壁の壁面緑化や高効率冷凍機の導入などによりCO₂排出を抑制しています。

なお、当SCのオープンにあたっては、新たに約3,500人の地域雇用を創出しています。

「mozo wondercity」は、「すべてのお客さまにご満足いただけるコミュニティの創造」をテーマに、常に新たな時代のニーズに応えられる施設とサービスの提供を追求しています。

広島都市圏のベッドタウンに、地域の新たな コミュニティ空間誕生

2009年4月29日
グランドオープン
イオンモール広島祇園

広島県広島市



エリア初の試みとして、従業員休憩室にコンビニエンスストアを設置しています。

「イオンモール広島祇園」は、快適なショッピング環境の提供とともに、地域の新たなコミュニティ空間として日々の生活に潤いを与えるSCを目指しています。

敷地面積：約135,000㎡	専門店：130店
商業施設面積：約57,000㎡	従業員数：約2,500名
駐車台数：2,800台	商圏人口：約48万人、20.6万世帯



詳しいご案内はホームページをご覧ください。
<http://gion.aeonmall.com/>

地域密着型SCとしてオープン

「イオンモール広島祇園」は、地域の活性化を目的に三菱重工業(株) 広島工場跡地の有効活用事業としてオープンしたもので、当社が運営する51番目のSCです。

当SCは、広島市最大の人口を擁し現在も増加中の安佐南区に位置しています。JR可部線「下祇園駅」に近接し、国道も近くを走り、公共交通機関やクルマのアクセスに恵まれ、広域からの集客が期待できます。

当SCでは、ショッピングだけでなく、お客さまが楽しく快適な時間を過ごすことができる

「“ちょっと上”の新しい価値感」を提供する地域密着型SCを目指しています。

日々のショッピングから都市型の生活トレンド提案をコンセプトに130店の専門点を誘致し、地域のお客さまの展示会や発表会などにお使いいただける多目的ホール「イオンホール」も設置しています。

SC従業員の就労環境にも配慮してCSRを推進

当社では、専門店従業員の方々からの意見も反映させながら、SC従業員にとって働きやすい環境づくりを推進しています。当SCでは、中国・四国



既存SCを次々と活性化

当上期の既存SCのリニューアル

当社は、中期3ヵ年経営計画で既存SCを中心に収益を高めるため、当経営計画の最終年度である2011年度（2012年2月期）までに18SCの増床・リニューアルを推し進めてまいります。当期は上期に3SC、下期にも3SCをリニューアルオープンいたします。

2009年4月24日 —— リニューアルグランドオープン

イオンモールつがる柏

青森県つがる市

お客さまからの、施設や設備に関するご意見・ご要望をもとに、より安全で快適なショッピングをサポートできるよう、全館をリニューアルしました。1992年11月に当社の1号店としてオープン以来、これまでの増床などの集大成となる施設全体でのリニューアルによって、最新型のSCに生まれ変わりました。



敷地面積：130,000㎡
商業施設面積：42,000㎡
駐車台数：2,600台
専門店：100店(80店)

※()は活性化(リニューアル)前の数値です。

2009年4月24日 —— リニューアルグランドオープン

イオンモール三光

大分県中津市

県下最大級の品揃え・売場面積に改装したダイソーをはじめ、既存専門店の移動・改装を中心にリニューアルを実施。横幅にゆとりをもたせた駐車場の設置やお子さまの遊び場の改装、トイレや館内サインを最新型へ変更するなど、利便性をさらにアップしています。



敷地面積：108,000㎡
商業施設面積：36,000㎡
駐車台数：2,500台
専門店：70店
従業員数：約800名

2009年4月24日 —— リニューアルグランドオープン

イオンモール秋田

秋田県秋田市

昨年10月に退店した百貨店ゾーンを専門店ゾーン「ウェストモール」に刷新しました。国内1号店となる「ギャップジャパン」の新業態など多種多様な人気ショップを導入しました。さらにフードコートを移設して地域最大となる8店舗・650席に拡充し、立体駐車場も700台増加させるなど、お客さまのご要望にお応えしました。



敷地面積：133,000㎡
商業施設面積：67,000㎡(65,000㎡)
駐車台数：3,800台(3,100台)
専門店：171店(140店)
従業員数：約2,120名(リニューアルで400名新規採用)

下期の増床・リニューアル

■イオンモールむさし村山ミュー

東京都武蔵村山市

2009年9月18日
リニューアルグランドオープン

百貨店の退店跡と既存の専門店ゾーンも含め、お客さまのご要望の多かった店舗を9月から11月にかけて順次、導入し「ワンストップショッピング」の利便性をさらに高めていきます。ファミリー層にゆっくり楽しんでいただけるよう、総合スポーツ用品専門店および大型家電専門店を導入するほか、既存専門店「FLAXUS」が移転してオープン。さらにイオンモール初出店となるスペイン・バルセロナ発のコレクションブランド「MANGO」を導入し、外資系ブランドがさらに充実しました。



■イオンモール浜松志都呂

静岡県浜松市

2009年9月18日
リニューアルグランドオープン

キッズファッションの「スターベিশョンズ」「ブリーズ」など新たに8店舗を導入し、ファミリーで過ごす「楽しい時間」をさらに拡充しました。



■イオンモール名取エアリ

宮城県名取市

2009年11月13日
リニューアルグランドオープン予定

百貨店の退店跡と既存の専門店ゾーンも含めて、お客さまのご要望の多い店舗を導入し、「ワンストップショッピング」の利便性の向上を目指すとともに、「ワンランク上の上質」なライフスタイルを提案するリニューアルを実施します。

当社初となる駅ビルの全面リニューアル

2009年7月24日
グランドオープン
ペルチ土浦
茨城県土浦市



駅空間を明るくリフレッシュ

売場面積：約7,600㎡
店舗数：約60店



女性にうれしいパウダールーム



2009年7月24日、東日本旅客鉄道(株)との共同プロジェクトとして、茨城県土浦市の土浦駅ビルを全館リニューアルし、名称も新たに「ペルチ土浦」としてオープンしました。これは、中期3カ年経営計画の施策に掲げた活性化ビジネスのPM事業として当社初となる駅ビルのコンセプト策定、専門店誘致、運営管理業務を受託するものです。

リニューアルにあたっては、市場調査をもとに「ツチウラ ライフ コンビニエンス」をストアコンセプトとし、土浦駅を利用されるお客さまに“利便性”や“ここちよさ”の提案をコンセプトに専門店を誘致。発車案内ボードに加え無線LANシステムの設置など、駅ビルに必要な待合室としての機能とクイックなサービスを併せ持ったフードコート

「ペルチガーデン」を導入し、お客さまがゆったりと利用できる空間を提供しています。さらに、女性の視点を大切にしたサービスの提供として、コンコース階に、女性のお客さまに無料でご利用いただけるパウダー＆フィッティングルームを設置するなど、当社のSC運営のノウハウを活かしサービス機能を充実しました。

全60店舗のうち12店舗が茨城県初出店となり、新しい商業施設としてのイメージを醸成しています。

発展性の高い中国市場に進出

2011年には3SC体制に拡大

海外での事業展開については、2008年11月に中国初出店となる「イオン北京国際商城ショッピングセンター」をオープンしています。2009年9月には当SCにシネマコンプレックスを導入し、第2弾のグランドオープンを実施しました。シネマコンプレックス導入は、イオングループが中国で展開中のSCでは初めてで、当SCの完成度は着実に高まっています。

現在、中国では地域経済の成長に伴い、モータリゼーションが進展しており、当社がSC開発を始めた1970年代の日本と同様の状況にあります。特に北京エリアでは車の普及が急速に伸びており、SC事業が大きく成長する基盤が整いつつあり

ます。新中期経営計画の最終年度までに2SCをオープンさせて3SC体制とするほか、今後5年間で、華北・山東省エリアで5～7SCのオープンを予定しています。

さらに、2009年度より、ベトナムにおけるモール型SC展開の可能性ならびにディベロッパーとしての役割を担うにあたっての具体的な課題の検討を開始しています。



来店客数の増加で満車が続く駐車場



9月にオープンしたシネマコンプレックス



さらに成長を続け、国内に52SCを展開

当上期は、国内で2SCをオープンして1都2府24県に51SCを展開。さらに、駅ビルのリニューアル受託という新事業を展開し「ペルチ土浦」をリニューアルオープンしました。中国・北京の1SCをも含め、53の商業施設を運営する日本最大の商業専門ディベロッパーとしての地位をより一層確かなものにしています。当社の全SCでは、年間4億人を超える(2009年2月期実績)お客さまをお迎えしていますが、ディベロッパーの最大の役割である集客のさらなる強化を実現するため、18SCは駅前に立地し、お客さまの利便性を高めています。2009年4月に発表した新中期経営計画の最終年度である2011年度(2012年2月期)には、60店体制(国内57 中国3)の展開を目指します。

西日本

- 岡山県 39 イオンモール倉敷
- 広島県 40 イオンモール広島府中ソレイユ★
- 広島県 41 イオンモール広島祇園★
- 愛媛県 42 イオンモール新居浜
- 高知県 43 イオンモール高知
- 大分県 44 イオンモール三光
- 福岡県 45 イオンモール直方
- 福岡県 46 イオンモール福岡ルク
- 福岡県 47 イオンモール筑紫野★
- 熊本県 48 大津ショッピングプラザ
- 熊本県 49 イオンモール熊本クレア
- 熊本県 50 イオンモール宇城バリュー
- 宮崎県 51 イオンモール宮崎
- 宮崎県 52 イオンモールMiELL都城駅前★

(仮称)イオンモール新瑞橋
(2010年春オープン予定)

(仮称)イオンモール大和郡山
(2010年春オープン予定)

(仮称)イオンモール甲府昭和
(2011年春オープン予定)

中部・近畿

- 富山県 20 イオンモール高岡
- 静岡県 21 イオンモール浜松志都呂
- 愛知県 22 イオンモール木曽川キリオ★
- 愛知県 23 mozo wondercity(モゾ ワンダーシティ)★※
- 愛知県 24 イオンモール岡崎
- 愛知県 25 イオンモール東浦★
- 三重県 26 イオンモール鈴鹿ベルシティ
- 滋賀県 27 イオンモール草津

- 京都府 28 京都ファミリー※
- 京都府 29 イオンモール京都ハナ
- 大阪府 30 イオンモール寝屋川グリーンシティ
- 大阪府 31 イオンモール鶴見リーファ★
- 大阪府 32 イオンモール堺北花田プラウ★
- 大阪府 33 イオンモール藤井寺★
- 大阪府 34 イオンモールりんくう泉南

★印=駅前立地店
※印=PM(プロパティ・マネジメント物件)

- 兵庫県 35 イオンモール伊丹テラス★
- 兵庫県 36 イオンモール神戸北
- 奈良県 37 ならファミリー★※
- 奈良県 38 イオンモール橿原アルル

関東・東北

- 青森県 1 イオンモールつがる柏
- 青森県 2 イオンモール下田
- 秋田県 3 イオンモール秋田
- 岩手県 4 イオンモール盛岡
- 宮城県 5 イオンモール名取エアリ★
- 群馬県 6 イオンモール高崎
- 群馬県 7 イオンモール太田
- 茨城県 8 ペルチ土浦★※
- 茨城県 9 イオンモール水戸内原★
- 埼玉県 10 イオンモール羽生
- 埼玉県 11 イオンレイクタウンkaze★
- 埼玉県 12 イオンモール川口キャラ
- 埼玉県 13 イオンモール川口グリーンシティ
- 東京都 14 イオンモール日の出★
- 東京都 15 イオンモールむさし村山ミュー
- 千葉県 16 イオンモール千葉ニュータウン★
- 千葉県 17 イオンモール成田
- 千葉県 18 イオンモール富津
- 神奈川県 19 イオンモール大和

今後の開店予定SCのご紹介

	2010年度	2011年度
国 内	2SC	3SC
中 国	1SC	1SC

2010年春オープン予定



(仮称)イオンモール
大和郡山

奈良県大和郡山市

敷地面積：約166,000㎡ 専門店：約180店
商業施設面積：約78,000㎡ 商圏人口：約56万人、約21万世帯
駐車台数：4,150台

2010年春オープン予定



(仮称)イオンモール
新瑞橋

愛知県名古屋市中

敷地面積：約53,000㎡ 専門店：約130店
商業施設面積：約24,000㎡ 商圏人口：約35万人、約15万世帯
駐車台数：1,600台 (自動車15分圏)

2011年春オープン予定



(仮称)イオンモール
甲府昭和

山梨県中巨摩郡昭和町

敷地面積：約125,000㎡ 総賃貸面積：約48,000㎡
店舗面積：約28,000㎡ 駐車台数：約2,700台

財務概況

2010年2月期 第2四半期連結累計期間の連結業績概況

当第2四半期連結累計期間(2009年2月21日～8月20日)(以下、当上期)におけるわが国経済は、企業収益の悪化に伴う雇用不安や所得減少から個人消費が低迷するなど、依然厳しい状況が続いています。お客さまの節約志向、生活防衛意識が一層強まり、小売業界では、業種・業態を越えた競争が一段と激化し、優勝劣敗がより鮮明となる厳しい経営環境にあります。

このような状況の中で、お客さまニーズに対応

した地域一番の競争力あるショッピングセンター(SC)づくりを推し進め、本年4月に新規2SCを開設し、既存SCにおいては、4月24日に3SCをリニューアルオープンしました。

また、活性化ビジネスにおいては、7月24日に東日本旅客鉄道株式会社との共同事業である土浦駅ビルを全館リニューアルし、「ペルチ土浦」(茨城県)としてオープンしました。

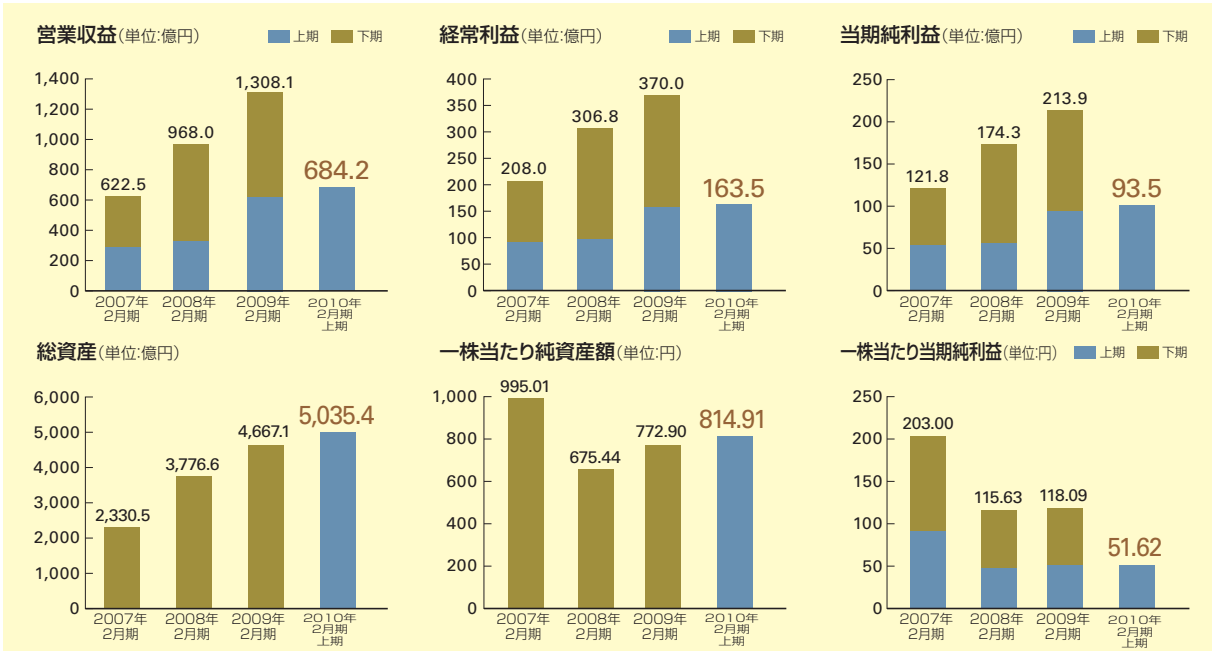
経営成績

営業収益は、684億2千万円(前年同期比10.2%増)と増収となりました。この増加の要因は、既存SC(45SC)の不動産賃貸収入614億62百万円(前年同期比0.7%減)に加え、新規SC(前期4SC、第1四半期2SC)の不動産賃貸収入69億57百万円の寄与があったからです。(当社の営業収益は、テナントからの不動産賃貸収入によるものです)

営業利益は、事業規模拡大に伴うコスト増加の一方、設備維持費を中心とした削減に取り組んだ結果、167億82百万円(同2.3%増)となりました。経常利益は、営業外収益が13億円(同81.5%増)、営業外費用が17億25百万円(同40.8%増)となった結果、163億57百万円(同2.9%増)となりました。特別損益では、特別利益として百貨店退店に伴う違約金など11億31百万円、特別損失として既存SCの増床・リニューアルに伴う固定資産除却など11億93百万円を計上しました。その結果、上期の純利益は93億5千万円(同0.6%増)となりました。

(単位:百万円)

連結損益計算書	前年中間期	当第2四半期	前 期
	2008年2月21日 2008年8月20日	累計期間 2009年2月21日 2009年8月20日	
営業収益	62,100	68,420	130,813
営業原価	40,131	46,237	82,416
営業総利益	21,969	22,183	48,396
販売費及び一般管理費	5,562	5,400	10,526
営業利益	16,406	16,782	37,870
営業外収益	716	1,300	1,629
営業外費用	1,225	1,725	2,493
経常利益	15,897	16,357	37,006
特別利益	800	1,131	1,334
特別損失	739	1,193	2,719
税金等調整前四半期(当期)純利益	15,958	16,296	35,622
法人税、住民税及び事業税	5,147	6,406	13,556
法人税等調整額	1,479	500	604
少数株主利益	35	38	71
四半期(当期)純利益	9,296	9,350	21,390



(注)2007年2月20日を基準日として、2007年2月21日付で普通株式1株を2株に分割しています。
また、2007年8月21日付で(株)ダイヤモンドシティを吸収合併しました。

※詳細につきましては、当社ホームページ<http://www.aeonmall.com/ir/library.html>に掲載しておりますので、ご参照ください。

※当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

財政状態(資産、負債および純資産の状況)

(資産の部)

資産は、前期末(2009年2月20日現在)と比較して368億21百万円増加し、5,035億4千万円となりました。この増加した主な要因は、現金及び預金が前期末と比較し201億13百万円増加したことに加え、有形・無形固定資産が減価償却で91億89百万円減少した一方で、新規SCの開店、既存SCのリニューアルなどで有形固定資産237億12百万円を取得したことにより

ます。
なお、現金及び預金の増加は、新規SCおよび既存SC増床の設備支払資金を長期借入金などにて前倒しで調達したことなどによるものです。

(負債の部)

負債は、前期末と比較して291億5千万円増加し、3,553億65百万円となりました。この増加の主な要因は、設備未払金・設備支払手形が前年度に比べ253億7千万円減少したものの、有利子負債が449億64百万円増加したことによるものです。

(純資産の部)

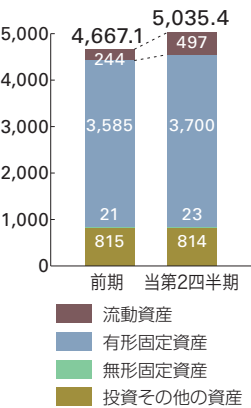
純資産は、四半期純利益による増加などにより、前期末と比較して76億7千万円増加し、1,481億74百万円となりました。

株主資本比率は、前期末の30.0%が29.3%へほぼ横ばいで推移しています。

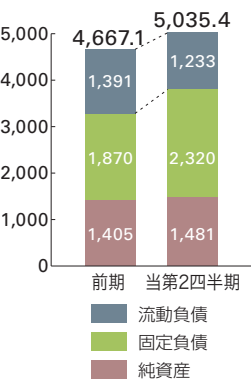
(単位:百万円)

連結貸借対照表	前 期	当第2四半期
	2009年2月20日 現在	2009年8月20日 現在
資産の部		
流動資産	24,499	49,703
固定資産	442,219	453,836
有形固定資産	358,504	370,016
無形固定資産	2,162	2,329
投資その他の資産	81,552	81,490
資産合計	466,718	503,540
負債の部		
流動負債	139,179	123,340
固定負債	187,035	232,025
負債合計	326,214	355,365
純資産の部		
株式資本	139,846	147,392
資本金	16,662	16,666
資本剰余金	16,971	16,975
利益剰余金	106,234	113,773
自己株式	△ 22	△ 23
評価・換算差額等	141	205
新株予約権	55	83
少数株主持分	460	492
純資産合計	140,503	148,174
負債・純資産合計	466,718	503,540

資産推移 (単位:億円)



負債および純資産の推移 (単位:億円)



財政状態(キャッシュ・フローの状況)

(単位:百万円)

連結 キャッシュ・フロー	前中間期 2008年2月21日 2008年8月20日	当第2四半期 累計期間 2009年2月21日 2009年8月20日	前 期 2008年2月21日 2009年2月20日
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,826	33,416	26,655
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 35,170	△ 46,779	△ 63,908
財務活動によるキャッシュ・フロー	21,944	43,146	38,180
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	25	△ 11
現金及び現金同等物の減少額	600	29,808	917
現金及び現金同等物の期首残高	3,199	4,092	3,199
分割に伴う現金及び現金同等物	△ 23	—	△ 23
現金及び現金同等物の期末残高	3,776	33,901	4,092

現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前期末と比較して298億8百万円増加し、339億1百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、334億16百万円となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益162億96百万円、減価償却費91億89百万円などによる資金の増加が、法人税等の支払額51億92百万円などの資金の減少を上回ったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は、467億79百万円となりました。この主な要因は、前期の新規4SCおよび増床・リニューアルした2SCに加え、当上期に開店した新規SCの設備代金の支払などによる支出が469億37百万円となったことなどによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果増加した資金は、431億46百万円となりました。この主な要因は、短期借入金の純増30億円に加え、新規SCおよび既存SC増床などの設備支払資金のために長期借入金579億円を調達する一方で、長期借入金の返済が159億35百万円、配当金の支払額が18億11百万円となったことなどによるものです。

通期の業績見通し

2010年2月期の業績については、営業収益1,430億円、営業利益395億円、経常利益375億円、当期純利益216億円と、2009年4月に公表した業績予想から変更はありません。

今後の景気動向については、依然として個人消費の低迷等、先行き不透明な状況が続くものと予想されます。当社では、下期に既存3SCにおける活性化を実施し(当株主通信P7-8をご覧ください)、リニューアルオープンいたします。そのほか既存SCにおいても新規専門店の導入などによりSC競争力を強化するとともに、運営・管理の効率化を推し進め、収益向上に取り組んでいきます。

さらに、事業基盤の拡充を目指し、中期的な観点から展開中の中国事業、活性化ビジネスへの取り組みも進めていきます。

2010年2月期 第2四半期決算短信は、以下のサイトをご覧ください。

 <http://www.aeonmall.com/ir/library.html>



株主コミュニケーション

株主優待のお知らせ

■対象株主さま
2009年2月20日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主さまについて、実施しています。
実施対象は、1単元(100株)以上の株式を保有されている株主さまです。

- 〈優待制度〉
- 100株～500株未満 3,000円相当のご優待商品
 - 500株～1,000株未満 5,000円相当のご優待商品
 - 1,000株以上 10,000円相当のご優待商品

詳細については、2009年6月下旬に送付しました優待品選択に関するご案内をご覧ください。

●ご優待商品

3つのコースからひとつを選択していただけます。

①「イオンギフトカード」

②「カタログギフト」

③「カーボンオフセットサービス」※

※このサービスを選択されますと、相当額の二酸化炭素排出権を一般社団法人「日本カーボンオフセット」(<http://www.co-j.jp/home/>)を通じて取得し、日本の償却口座に無償で移転することで、日本の京都議定書の目標達成に貢献します。

イオンギフトカード

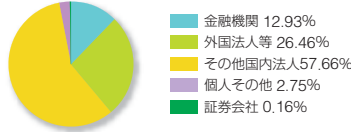
カタログギフト

〈ご報告〉2009年2月期の実績では、23名の方よりご選択いただき、19トン分の二酸化炭素排出権を取得いたしました。



株式の状況 (2009年8月20日現在) 所有者別株式分布状況 (2009年8月20日現在)

発行可能株式総数 320,000,000株
発行済株式の総数 181,130,207株
株主数 7,679名



大株主(上位10名) (2009年8月20日現在) 当社への出資状況

	持株数(千株)	出資比率(%)
イオン株式会社	101,057	55.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	4,138	2.28
メロンバンクエヌエーアズエーエージェントフォーイッククライアントメロンオムニバスユーエスベンション	3,912	2.15
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドンエスエルオムニバスアカウント	3,237	1.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,961	1.63
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	2,375	1.31
バンクオブニューヨークタックストリイティジヤスデツクオムニバスツー	1,965	1.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,821	1.00
東京海上日動火災保険株式会社	1,683	0.92
第一生命保険相互会社	1,479	0.81

(注) 1. 所有株式数の千株未満は切り捨てています。 2. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

株式の状況・会社概要

会社概要 (2009年8月20日現在)

社名	イオンモール株式会社
英文社名	AEON MALL CO.,LTD.
設立	1911(明治44)年11月
資本金	166億6千6百万円
本社所在地	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
従業員数	579名

取締役・監査役 (2009年5月13日現在)

取締役会長	林 直樹	取締役	岩本 馨
代表取締役社長	村上 教行	取締役	高橋 富士夫
専務取締役	木村 洋一	取締役	相馬 勝
専務取締役	山中 千敏	取締役	岩本 博
常務取締役	平林 秀博	常勤監査役	横井 賢
常務取締役	小西 幸夫	監査役	林 有恒
取締役相談役	岡田 元也	監査役	岡崎 隆夫
取締役	寺澤 洋一	監査役	若林 秀樹
取締役	村井 正人		

ホームページのご紹介

投資家の皆さまへの情報はホームページでもご覧になれます。
<http://www.aeonmall.com>から、「投資家の皆さまへ」をクリックしてください。



イオンモールはホームページで様々な情報を発信しています。



株主さま、投資家の皆さまへのコミットメントを含む、社長からの挨拶を掲載しています。

株主メモ

事業年度	2月21日から翌年の2月20日まで
基準日	2月20日(その他必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。)
定時株主総会	5月(ただし20日までに開催)
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
お問い合わせ先	イオンモール株式会社 管理本部 総務部 〒261-8539 千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1 電話 043-212-6463 ホームページ http://www.aeonmall.com
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることが出来ない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載	http://www.aeonmall.com

株券電子化に伴う株式事務の変更について

2009年1月5日から上場会社の株券が電子化されました。これに伴い、株式事務のお申出先が次の通りとなりました。

■未払配当金のお支払い、支払明細の発行
みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

■住所変更、単元未満株式の買増・買取請求、口座振替、配当金受取方法の指定等
【証券会社に口座をお持ちの株主さま】
お取引の証券会社にお問い合わせください。

【特別口座の株主さま(証券会社に口座をお持ちでない株主さま)】
みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

■お問い合わせ先
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)

Our Vision

私たちの理念・ビジョン・事業

基本理念

お客さま第一

- 1** 企画・開発・建設・リーシング・運営
までの一貫したモールビジネス
においての顧客は「地域のお客
さま」です。
- 2** テナントスタッフを始め、清掃・警備
やメンテナンスなどモール(SC)に
かかわるすべてのパートナーと
ともに、「お客さま第一」の価値観を
共有することが当社とパートナ
ーの発展につながります。
- 3** お客さまの期待に応え、更なる期
待を得、またそれに応えるという
価値の連鎖により、永続的な発展
があります。

経営理念

イオンモールは、「輝きのあるまちづくり」を目指します。

私たちは、パートナーとともに、輝きのあるまちを創造し、地域で生活する
人々の、より彩りあるくらしの実現に貢献し続けます。

「輝きのあるまち」とは

私たちが創る「驚き、感動、喜び」のある生活拠点に
よって魅力溢れる新しい生活があるまちのことを指
します。

「パートナー」とは

地域社会、行政、NPO、テナント企業、協力企業、地
権者、投資家など、まちづくりにかかわるすべての人
を指します。

コーポレートメッセージ



ひとも、まちも、きらきら。

イオンモール株式会社

〒261-8539 千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1 イオンタワービル7階
TEL 043-212-6450 FAX 043-212-6736

投資家の皆さまへの情報はホームページでもご覧になれます。

<http://www.aeonmall.com>

